

# 序

インターベンション (intervention) の語彙は、“介入，干渉すること”であるので，病気の自然経過に対し医療行為をほどこせばインターベンションになるのだが，一般的には，虚血性心疾患に対して行う冠動脈のカテーテル治療をインターベンション治療と称する．血管のカテーテル治療は冠動脈のみならず閉塞性動脈硬化症などの末梢血管に対しても行われるので，冠動脈のそれは冠インターベンション (percutaneous coronary intervention : PCI) と呼ばれ，末梢インターベンション (percutaneous peripheral intervention : PPI) と区別される．

労作性狭心症においては，粥状硬化により冠動脈内腔が狭小化し，冠予備が減少する．そのため運動などの心筋酸素需要が増大するときに酸素供給が追いつかず虚血が発現する．本治療法の原理は，狭窄を解除し冠予備能を正常化することにある．本治療法の開発当時には，経皮的冠動脈形成術 (percutaneous transluminal coronary angioplasty : PTCA) とよばれ，先端に細長い風船のついたカテーテル (バルーンカテーテル) にて狭窄を開大していた．その後，ステントなど種々な狭窄拡張用のデバイスが考案されたため，バルーンカテーテルによる治療をPOBA (plain old balloon angioplasty) と呼び，冠動脈のカテーテル治療の総称を冠インターベンション (PCI) と称する．

2005年度の推計では，年間のインターベンションの症例数は，日本で約175,000例 (SG Cowen調べ)，米国で約1,136,000例 (JP Morgan調べ)，全世界で約2,344,000例 (HSBC調べ) といわれている．ACバイパス手術症例は，日本では約22,000例 (矢野経済研究所調べ)，米国で約165,000例であるので，明らかに日本ではインターベンション治療を選択される割合が多い．しかし，米国でも薬剤溶出ステントが出現し，インターベンション後の再発が著減してからはインターベンションの比率が高くなりつつある．ちなみに，2002年度の米国のACバイパス症例数は約500,000例 (Heart Disease and Stroke Statistics調べ) であったとされている．

このように多くの患者様へのPCI治療を迅速かつ的確に行うためには，本治療にかかわる医師，コメディカルの養成は大変重要な課題である．本書は，これからPCIを始めようとする先生方や，PCIに携わるコメディカルの方々のための解説書である．本文の羅列だけでなく要点をTips & TricksやMEMOなどにまとめて皆様方の理解が容易になるようにできるだけ工夫した．本書を大いに活用され日々のPCI治療に役立てていただければ幸甚である．

2008年2月

南都伸介